

# まちかど アルバム



## 酒津漁港

### 岸壁がキャンバス

10月7日(日)、地元の小学生たちが気高町酒津漁港の岸壁をキャンバスに見立て、海の生き物を描きました。これは、酒津地区公民館が、海と地域を大切に作る気持ちをはぐくむために毎年行っている事業で、今年で8年目。あらかじめペンキで白く塗られたコンクリートの岸壁に、タコやカジキ、タイなどが思い思いに描かれました。酒津漁港の岸壁では今、広い海と大空を額縁に、魚たちが楽しそうに泳いでいます。

## 佐治歴史民俗資料館

### 佐治谷ばなしで夜が更ける

60日ごとに巡ってくる庚申こうしんの日の民俗行事「庚申の夜語り」が、10月9日(火)、佐治歴史民俗資料館民話の館で行われました。庚申の日に夜を徹して語り合っていたことから名が付いたと言われるこの行事。参加者はいろりを囲み、さじ民話会会員の語りに耳を傾けました。笑いの中にも戒めのある佐治谷ばなしが館内に響き、夜が更けていきました。



## 鹿野町旧城下町

### こむそう 虚無僧行列が出現

NPO 法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会主催の「鹿野城下虚無あんぎゃ僧行脚」が、9月23日(日)、鹿野町旧城下町一帯で開催されました。藍染めののれんや、ちょうちんが並ぶ風情ある町並みを、県内外から集まった56人の尺八愛好家が、虚無僧姿で笛の音を響かせながら練り歩きました。全国的にもめずらしいこの行事。幻想的な光景に、集まった多くの観客は魅了されました。

## 河原町ひけた曳田

### いらこせいはく 伊良子清白の生家跡に記念の石柱

河原町出身の詩人、伊良子清白の生誕130周年を記念して、同町曳田に生家跡を示す石柱が建てられ、誕生日の10月4日(木)、除幕式が行われました。「漂泊の詩人」と呼ばれ、今なお人々を魅了し続ける清白。これまで生家跡に何も残っていなかったことから、鳥取県現代詩人協会が建立しました。除幕式には関係者30人が出席し、完成を祝いました。





## 市役所駅南庁舎

### 子育て家庭にビッグなプレゼント

本市の「子育て支援カード事業」に申し込んだ人の中から、抽選で贈呈する軽自動車の当選者が決まりました。9月28日（金）に行われた贈呈式では、同事業の協賛企業で、軽自動車を提供していただいた株式会社小河自動車おがわまもるの小河守社長が、当選者の白岩美知さんしらいわみちにマスコットキーを手渡しました。白岩さんは「子どもの保育園への送り迎えや、買い物に利用したい」と喜びを語っていました。

## 県民文化会館

### 第1回全国ホンモロコシンポジウム

10月4日（木）、「第1回全国ホンモロコシンポジウム」が県民文化会館で開催されました。ホンモロコは、本来、琵琶湖固有の魚ですが、淡水魚特有の臭みがなく高級魚として取引されるため、市内でも休耕田を利用した養殖が盛んに行われています。この日は、全国から集まった養殖業者と研究者が、ホンモロコの魅力や養殖方法、研究成果について発表しました。



## 国府町民体育館

### 全国かるた競技鳥取大会

9月23日（日）、おおとものやかもち、ありわらのゆきひら大伴家持と在原行平ゆかりの地、国府町の町民体育館で、「全国かるた競技鳥取大会」が開催されました。全国かるた競技は、小倉百人一首の歌が書かれた札を1対1で取り合うかるたの公式競技で、本市で開催されるのは初めてです。大会には、県内外から老若男女約140人が参加。静まり返った会場では、歌が読まれるやいなや、一斉に畳を叩く音が響き渡りました。

## 用瀬町用瀬

### お山ずもう はっけよいのこった!

10月10日（水）、用瀬町用瀬みすみやまの三角山神社で、用瀬保育園の園児らによる「奉納お山相撲」が行われました。



しこ名を書いた布を背中に付けた、まわし姿の豆力土が東西に分かれ、行司の「はっけよい、のこった」の掛け声で取組が開始。白熱する勝負に、訪れた大人たちも手に汗を握りながら観戦し、大技が飛び出すたびに歓声が沸き上がっていました。

## 鳥取砂丘

### たこあげフェスティバル

10月8日（月）、鳥取砂丘で、県内外のたこ愛好家60人が参加して、「たこあげフェスティバル」が開催されました。参加者は、色とりどりの自慢のたこをあげたり、たこを操る技術を披露。「日本の踊りシリーズ」と題された、しゃんしゃん祭の傘と踊り子を描いた色鮮やかな連だこは、ひととき美しく大空を舞っていました。

